

山友会 白書

2018

特定非営利活動法人 山友会

2018 年度活動報告「山友会白書」



目 次

山友会白書 2018

2019年6月発行

発行者:特定非営利活動法人 山友会

企画・編集:山友会白書2018制作委員会

デザイン・イラスト:進士 遙

協力:ボランティアの皆さま、関係者の皆さま

Special Thanks: 山友会の仲間たち

p 4	代表挨拶
p 5	理事長挨拶
p 6	特集: 台東区協働事業提案制度 平成30年度実施事業 「社会的きずなが希薄な独居生活者への居場所・ 生きがいづくり事業」
p 8	活動報告: クリニック
p10	活動報告: 相談室
p12	活動報告: 炊き出し・アウトリーチ
p14	活動報告: 食堂

p16	活動報告: 山友荘
p18	活動報告: 居場所・生きがいづくりプロジェクト
p20	活動報告: 山谷・アート・プロジェクト
p22	活動報告: 共同墓地の運営
p24	会計報告
p28	イベント・講演等／メディア掲載
p30	ご支援について



代表挨拶

ルボ・ジャン



世の中から孤立し孤独に苛まれている人々の存在やそこから迎える孤独死は、現代社会において大きな問題となっています。山友会は、孤立によって引き起こされる深刻な問題について、いかに私たちらしく取り組むべきかをいつも考えています。

2018年度は台東区との協働事業「社会的きずなが希薄な独居生活者への居場所・生きがいづくり事業」が行われたこともあり、相談室のスタッフやボランティアは毎日のようにドヤやアパート、テントを訪問しています。この1年で山友会を新たに訪れる人が増えたのはとても大きな成果です。その人数の多さに、私は新しく山友会を訪れるようになった人の名前と顔を覚えるのに大変苦労しています。山友会がいつでも誰でも来られる場所であることは、とても大切なことです。また、孤立し孤独の中にある人を訪ねていくのも同じくらい重要なことです。

ドヤやアパートの生活に移った人の中

には体調を崩してしまう人もいますので、しばらく姿を見せない人がいると私は心配になります。ですが、正直に言うと、みんなが心配なだけではなく、寂しくなるのです。

「山友会にはお世話になりました。どうやってお返しすればいいですか」と尋ねるおじさんがいます。その時、私はいつもこう答えます。

「悩む必要はないよ。みんなが私たちのそばにいて、笑顔と元気な姿を見せてくれれば、それが私たちにとっていちばんのお返しなんだから」



いつも変わらぬご支援を賜り誠にありがとうございます。

山友会の裏に建設されていたマンションが、ついこの間完成しました。新しい住民とも互いに良好な関係を築くことも求められてくるのだと思います。老朽化によりアーケードが撤去されたいろは会商店街はまるで別の町のような景色に変わりましたが、まだ野宿を続けている人は存在します。さらに、ドヤやアパートで暮らす人々の孤独死や高齢化など、街の姿が変わっても「日雇い労働者の街」であった頃とは異なる深刻な問題が表面化しています。2018年度は、こうした活動地域の変化を踏まえた問題意識や、それらに対する対策の方向性を活動地域のある東京都台東区と対話を重ねながら共有し、協働した取り組みを行って参りました。

皆さまのご支援により収支状況は一時的に改善されましたが、深刻なスタッフ不足に悩まされた1年でもあり、2017年度に策定した中期事業戦略とそれに伴う中期資源調達計画を、

計画どおり実施するのが難しい状況でした。2019年度の活動にあっても、必要なスタッフを確実に確保していくことは喫緊の課題です。

さて、山友会に集うおじさん達の中には「死んだら山友会の墓に入りたい」という人も多くいます。地域や山友会を取り巻く環境の変化に怯むことなく、ご支援いただいている皆さまとともに、こうしたおじさん達の想いに寄り添い続けていきたいと思っています。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



理事長挨拶

大脇 甲哉



台東区協働事業提案制度 平成30年度実施事業

「社会的きずなが希薄な 独居生活者への居場所・ 生きがいきづくり事業」

平成30年度、山友会の活動地域である山谷地域を含む東京都台東区で平成29年度より始まった「協働事業提案制度」を活用し、台東区と協働して「社会的きずなが希薄な独居生活者への居場所・生きがいきづくり事業」を実施してきました。



1. アウトリーチ・定期訪問

福祉事務所との会議において選定された対象者を担当ケースワーカーと山友会相談員が訪問。その後、山友会相談員が月1〜2回程度定期的に訪問し、信頼関係を構築。山友会への来所を促すなどして、居場所づくり事業利用を案内。その他、訪問時に困りごとなどの生活状況や健康状態の確認を行った。

2. 居場所づくり事業

対象者の日常生活における親密な人間関係を形成できる居場所を運営し、山友会相談員が生活相談等に応じる。そのほか、未受診や受診中断などの健康課題があった場合の受診の促しや同行、介護サービス等の情報提供や利用援助、関係機関との連絡調整などの日常生活の支援を行った。

3. つながりづくりサポート事業

地域における関係形成を目指し、対象者の地域における社会的なつながりづくりをサポート。対象者主催のミーティングの運営を支援し、対象者の自主的かつ継続的な社会活動の創出を促す。ミーティングで企画された社会活動の実施に際して、山友会スタッフが対象者に対して側面的支援を行った。

事業実績

1. アウトリーチ・定期訪問
対象者数:37人
のべ支援件数:478件

2. 居場所づくり
対象者数:26人
のべ支援件数:403件

3. つながりづくりサポート
対象者数:6人
のべ支援件数:40件

事業企画背景

山友会では、路上生活状態の時から関わりを持った人々が地域生活に移行した後を見守る取り組みを行っています。活動地域の中心である山谷地域においてすら社会的に孤立しがちな生活困窮状態にある人々と接点を持ち支援を届けることは難しく、そうした人々が孤独さの中で前向きに生きる力を失ったような状態にあることに問題意識を持っていました。

企画概要

本事業は、社会的なつながりが希薄な状態にある簡易宿所（ドヤ）に宿泊する生活保護受給者37名の方¹を対象に実施されました。台東区役所保護課のケースワーカーと協働したアウトリーチ、山友会相談員などによる定期訪問を通して信頼関係を構築。そして、山友会の相談室への来所を促し生活相談や生活支援を行うこと（居場所づくり事業）でスタッフ、ボランティアとの関係づくりや来所者の方同士の関係づくりを行い、山友会の事業の一つである「居場所・生きがいきづくりプロジェクト」への参加を通して社会的なつながりづくりや地域における役割づくりのサポートを行う（つながりづくりサポート事業）のが本事業の枠組みです。

¹ 台東区保護課との関係機関調整会議にて選定。

事業の成果

事業の利用を通して、対象の方たちの多くに親密な人間関係が築かれ、社会的なつながりが回復していったことにより、病気を治すことをあきらめていた方が受診を再開されたり、ゴミ屋敷のような状況になっていた部屋を少しずつでも片付けようとされたりと、ゆっくりではあってもそれぞれに前向きに生きる力を取り戻し、生活課題とされてきたことが解決することにつながっていく様子が見られました。求職活動への不安が和らぎ前向きに取り組めるようになったことで就職できた方は、つながりづくりサポート事業の一環で参加した地域イベントの中で、趣味のギターを披露し、イベントを訪れたさまざまな方たちを喜ばせ、彼にとっても地域の中で多様な人々とつながる機会となりました。

また、対象の方同士が来所した際にお互いの様子を気遣いあったり、足が遠のいてしまっている対象者の様子をこちらに知らせてくれたりと、対象者同士に助け合う関係が育まれる様子も見られ、本事業がこの地域に互助的な関係を芽生えさせる可能性があると感じました。

そして、この取り組みを行政と協働し、地域社会から孤立しがちな人々の困りごとや悩みを共有しながら、ともに手を差し伸べることができたこの経験は、山谷地域における支え合いや助け合いをより多様で豊かなものにしていくきっかけとなったのではないかと考えています。（副代表 油井）

クリニック

活動報告

1

ボランティアの医療スタッフが、主に路上生活者の方など健康保険証を持たない方々に対して、無料診療を行っています。専門的な治療が必要な方は、相談員と連携して、治療を受ける上で必要な公的支援制度の利用について相談しています。



活動報告

《 生命を守る最後の砦 》

2018 年度、山友会クリニックには 56 名の患者さんが新たに受診されました。患者さんの多くは山谷地域およびその周辺で路上生活を送る方々です。その多くは山友会で行うアウトリーチ・炊き出しや、おじさん同士での口コミをきっかけに受診されますが、このほかにも様々なきっかけで受診される方がいらっしゃいます。山谷地域や他地域のホームレス支援団体からの紹介で受診される方のほか、最近では刑務所出所者の支援を行う機関や団体、難民支援団体などからの依頼で必要な医療につなぐための支援や、その間の治療を行うこともあります。どのようなきっかけで受診されたとしても、受診される患者さんの多くが、必要な医療にアクセスできない状況にあるということは同じであり、このクリニックは生命を守る最後の砦なのです。

《 「まちの保健室」としての役割 》

また、ドヤやアパートで暮らす人が健康面の不安を抱えて受診されることもあります。生活保護制度を利用すれば医療機関に受診できるようになっています。しかし、今までの人生の中で病院に行き慣れていない方の中にはどこに受診してよいかわからなかったり、どのような手続きが必要かわからなかったりして体調を崩していても受診できずにいる方、普段から受診している病院があっても

医師に状態をうまく伝えられなかったり、苦しみや辛さを打ち明けられなかったりする方がいらっしゃるのです。時間をかけて丁寧にお話を伺いながら、どのような病気の可能性があるのかを考え、どのように治療をしていくのがよいのかを相談します。専門的な治療が必要な場合は、地域の医療機関に宛てた紹介状を書いてお渡しします。一人で受診するのが不安という方は、相談室のスタッフと一緒に受診してもらうこともあります。

経済的な問題で医療機関を受診できない方のためだけではなく、山谷地域の方々が孤立せず安心して暮らすために、健康面の不安を和らげ、必要な医療につなぐという「まちの保健室」のような役割の必要性も高まってきています。

《 医療を通じた出会いの機会 》

一方で、看護師スタッフが不足しており、不安定な体制で活動を行わなければならない状況がありましたが、2018 年度中に 10 名の看護師や薬剤師のボランティアの方に新たにご参加いただきました。この取り組みを続けることができたのは、多くのボランティアの方々のご協力によるものです。日々たくさんの方々が訪れるこのクリニックは、患者さん、ボランティアの方々、スタッフと、それぞれに様々な人生を歩んできた人と人が出会う機会となっています。

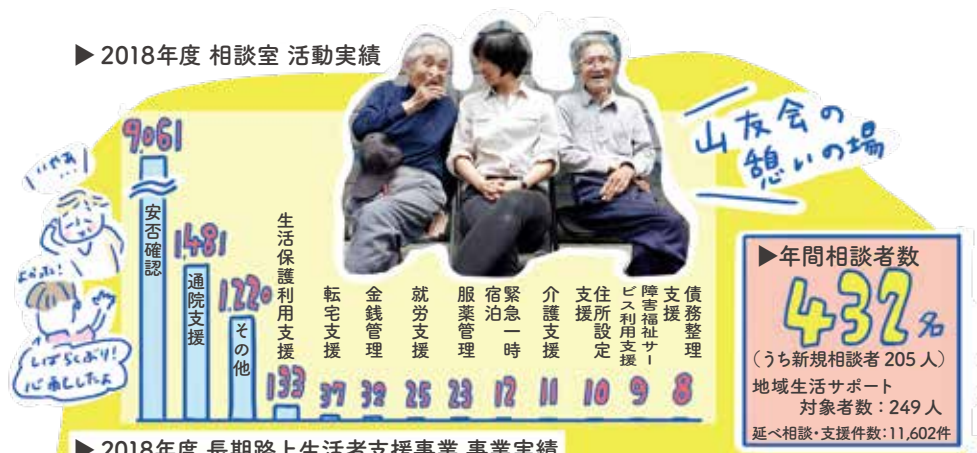
相 談 室

活 動 報 告

2

生活上の問題や健康上の問題に対しての相談支援、ホームレス状態にあった方が、アパートやドヤ（簡易宿所）等での地域生活に移られた後の地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応 等）を行っています。来所される方々に対してお茶や日用品も提供しており、山友会を訪れる人々にとっての憩いの場にもなっています。

▶ 2018年度 相談室 活動実績



▶ 2018年度 長期路上生活者支援事業 事業実績

1. 巡回回数	2. 巡回相談実績	3. 地域生活移行者	4. 見守り支援実績
医師 24回 (精神科医 12回 整形外科医 12回) 看護師 24回 (月2回) 生活相談員 48回 (月4回)	■延べ声掛け人数 1,365人 (巡回1回あたり 28.4回) ■対象者数 125人 ※姓名が確認できない対象者が重複して数えられている可能性あり うち、長期路上生活者 66人 姓名または姓か名が把握できた人数 104人 ■巡回時医療相談回数 537回 (巡回1回あたり 11.2回)	7人 内訳) 簡易宿所 7名 (うち1名失踪)	生活相談等に 至った人数 66人 (うち長期 路上生活者 28人) 内訳) 生活相談 65人、 山友会クリニック での無料診療 52人

活動報告

午前 10 時にシャッターが開くと相談室の 1 日の始まりです。山谷地域で路上生活をしている方をはじめ、上野や浅草で路上生活をしている方、生活保護制度を利用してドヤやアパートで暮らしている方など毎日多くの方が集まります。クリニックでの診察を待っていたり、食堂に昼食を食べに来たり、シャワーや洗濯機を使いに来たり、すっかり安心して椅子に腰かけたままうたた寝をしていたりとそれぞれに自由に過ごしてもらっています。

台東区との協働事業「社会的きずなが希薄な独居生活者の居場所・生きがいづくり事業」や長期路上生活者支援事業などの取り組みにより、活動の対象者の方が増えてきていますが、相談室ボランティアの方たちの活躍によって活動が支えられています。5 人の相談室ボランティアの方がそれぞれ週 2 日程度活動しています。来所したおじさん達の話聞いてくれたり、区役所や病院に同行してくれたり、ドヤやアパートを訪問して心配ごとを聞いてくれたりと、今や相談室になくてはならない存在です。

その一方で、山友会と関わりのある方のうち、ドヤの部屋で一人亡くなる方や病院で亡くなる方が増えています。一人暮らしや身寄りのない方が多い中、年を重ねていくことで起きるこうした出来事と

も向き合っていかななくてはならなくなってきています。しかし、活動の手伝いをしてくれているおじさん達の中でこの危機感を共有してくれた方々が、同じドヤやアパートに住む体調を崩している他のおじさんがいたときに様子を見に行ってくれたり、何かあったときにはスタッフに知らせてくれたりしています。山友会に集うおじさん達の中で、互いに支え合うコミュニティが新たな形で生まれ始めています。

少しずつ山谷の街並みが変わってきています。廃業したドヤの跡地にマンションやアパートが建てられることが増えました。山友会の裏にも 13 階建てのマンションが建ちました。新たにこの街に住むようになった方々がこれから増えていくのにともない、山谷の街のあゆみを知らないという方や理解しづらいという方とも、どのように向き合っていくのかを考える時期がきていると感じています。訪れる人たちに安らぎをもたらし、人と人とが自然と絆を深め、互いに手を差し伸べ合えるこの大切な場を、変わりゆく街の中でどのように残していくことができるのか問われています。

(相談室長 藺部)



炊き出し・アウトリーチ

活動報告 **3**

山友会では隅田川河川敷で、毎週水曜日にテント生活の方々を訪問するアウトリーチを行い、木曜日には炊き出しとアウトリーチを行っています。多くのボランティアの方々とともに、食事の提供だけでなく生活相談や健康状態の確認なども行っています。

▶ 2018 年度 炊き出し・アウトリーチ 活動実績

■水曜炊き出し・アウトリーチ	
年間炊き出し延べ配食数	831食
アウトリーチ訪問件数	892件
(年間実施回数)	49回
■木曜炊き出し・アウトリーチ	
年間炊き出し延べ配食数	4149食
アウトリーチ訪問件数	1466件
(年間実施回数)	50回



山友会
おじさん
隊



「猫は、裏切らないもんね」

▶ 活動報告

路上生活者の方々を取り巻く環境は、年々変化しています。2018年度の夏まで行っていた水曜日の炊き出しでは、列に並ぶ路上生活者の方々が徐々に減少しました。炊き出しのためにフードバンクから食品をご提供いただいていたが、食品を安定的に確保することが難しくなっていました。炊き出しを行っていた隅田川の桜橋付近には、それまでアウトリーチで巡回していた範囲のほかでテント生活をしている方や、河川敷で寝泊まりをしている方がいました。そうしたさまざまな要因から、2018年度の夏より水曜日の炊き出しを中止し、アウトリーチの範囲を拡げた上で、より一人ひとりとの関わりを深めることに重点を置くようにしました。

木曜日は引き続き、隅田川の白髭橋付近で炊き出しとアウトリーチを行っています。ここでも、今なお数十のテント生活をされている方がいます。年月をかけて少しずつコミュニケーションを重ねて、病気で辛いときや困りごとがあったときには頼ってもらえるような関係づくりを続けています。

2018年度の印象的な出来事として、長年テント生活をされていた方が体調を崩し、毎週のように見守り続けたことがありました。その方は、犬と猫とずっと一緒に暮らしていましたが、犬は老衰のため亡くなり、猫は台風の時に波にさらわれてしまいました。家族同然で

あった犬と猫を亡くして気を落としたのか、そこから急激に体調を崩してしまっていたのです。それ以降は、テントを訪問すると、ふさぎ込んだように布団にくるまって寝ていることが多くなりました。病気の状態も悪くなりテント生活が体に堪えるようになったのか、生活保護制度を利用してテントから山谷のドヤに住まいを移し、病院通いの生活を続けていました。しかし、彼にとっては十数年暮らしていたテントが住み慣れたわが家と感じるようで、再びテントで暮らすようになりました。もしかすると、テントで最期を迎えようとしているのかもしれませんが、本人の気持ちに寄り添いながら見守り続けたいと思っています。

かつてブルーシートのテントが多く建ち並んでいた隅田川沿いの景色は、段々とテントが少なくなり、ともすれば状況が改善されているように見えます。しかし、テント生活を続けている方の中には高齢により一人で生活することが難しい状態になっている方がいるのが現実です。テント生活から脱却できるようになることだけでなく、その後の生活も視野に入れて、一人ひとりに必要な支援を続けていきたいと思っています。

(炊き出し・アウトリーチ 後藤)



食堂

活動報告

4

クリニックの患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に無償で昼食の提供を行っています。一緒に食卓を囲うことで関係づくりのきっかけにもなっており、「心もお腹もいっぱいになる」食堂を目指しています。



活動報告

この数年、昼食を食べに訪れるおじさんの人数が増えている一方で、食堂のお手伝いをしてくれるおじさん達が多くなっています。新しい出会いが増えているのを感じ、嬉しい限りです。

以前に屋台や弁当屋、料理店、自衛隊の厨房など調理の仕事の経験があるおじさん達の活躍はもちろんのこと、調理経験がないおじさん達も手伝っているうちにいろいろなことが出来るようになったり、動きもスムーズになったりします。次第に、新しく参加されたボランティアの方に段取りを説明して下さったり、食べる側のおじさん達の身になってアドバイスをしてくれたりすることもあり、とても助けられています。今ではおじさん達の協力なしで、一日に多いときで 80 食を提供しているこの食堂を運営することは考えられません。

これほど大きな助けになっていながら、「手伝わせてもらってありがとう」という姿勢を崩さず、気持ちよく作業をこなして下さることは、いつも新鮮な感動を与えてくれ、食堂を楽しい雰囲気してくれます。はるばる来てくださるボランティアの方々も、おじさん達と触れ合いながらできることを喜んでおり、何でもないやりとりを通して気持ちが明るくなり、元気をもらって帰ることができると言ってくださいます。

お手伝いをしてくれるおじさん達も「ここに来ると普通ではありえない出会い

いがある」と話します。ボランティアの方は、女性も男性も、若い学生の方から 80 歳近くの方まで、年代も職業もさまざまで、フランス、イタリア、ベルギー、アメリカ、韓国など世界各国からも来られます。「遠く旅行に行かなくても、ここで会えるからいいね」と、こうした多様なボランティアの方々との出会いを喜んでいます。そして、片言の英語やフランス語を一生懸命に覚えることも楽しんでいるようです。

このように、ボランティアの方々やお手伝いして下さるおじさん達、そして昼食を食べに来てくださるおじさん達の存在によって、食堂が山谷の人々にとっての多様な出会いの場でもあり、山友会というコミュニティの中での役割が生まれていく場にもなっています。

限られた時間や人手、活動資金、スペースの中で、果たしてどこまでできるのだろうかと考えることもしばしばですが、ひとり孤独から抜け出すことができず、人との関わりや生きる喜びを感じられないままの方々がいる限りは、喜んで迎え入れられる場所でありたいと願いつつ、活動を通していただいた出会いを大切に育てていきたいと思います。

(食堂 和田)



山友荘

活動報告

5

山友荘は、元ホームレスの方などで、介護が必要である方や、病気や障害のため一人で暮らすことが難しくなった方のための住まいを提供しています。スタッフが常駐し、生活の見守りや支援を行うほか、食事の提供、医療機関・介護事業所などとの連絡調整を行うことで、入所されている方々の暮らしを支えています。

▶ 2018 年度山友荘 活動実績

延べ
入所者数
21人
新規入所者 2人
延べ
退所者数
(他界) 4人

Aさんのお見送りの日

たくさんの方が
あつきました

ラーメンを
平らげる
Aさん



山友会
おじさん
隊



「今日はケンカできないのか……」

(いつも山友荘に来る訪問看護の担当者がお休みと知って)



活動報告

山友荘は2019年4月で10年目を迎えました。開所当初からお住まいの方も多いことから、年を重ねていくことで体調を崩しやすくなる方や人生の終わりを迎える方が少しずつ増えてきていたため、入居者一人ひとりの日々の変化に気を配っています。そのような中で、昨年度は4名の方がお亡くなりになり、うち2名の方は山友荘でお看取りしました。

そのうちのひとり、今年3月に老衰でお亡くなりになったAさんは、約5年間山友荘で暮らしていました。お部屋に伺うと、決まってスタッフに水筒を渡しお茶を入れてほしいと頼まれました。お茶を入れた水筒を渡した時の「ありがとう」と言う笑顔で、こちらまで笑顔になってしまう不思議な魅力をお持ちでした。頑固でわがままな一面もあったAさんは、ちょっとしたことですぐにヘソを曲げてしまうこともありました。

90歳間近のAさんの体が徐々に弱っていくのに伴って、ひとりで買い物に行くことが難しくなったり、大好きな塩飴もあまり舐めなくなったりした頃のこと。「何か食べたいものある?」と尋ねると、「あたたかい醤油ラーメンが食べたい」と言いました。その夜、スタッフ間で相談し、小さなカップラーメンを作ってお出しすると、それまでに見たことのない食べっぷりでラーメンを平らげました。そしてそれが、Aさんがしっかりと召し上がった最後の食事になりました。ほと

んど食事を摂ることができなくなったAさんは、ゆっくりと衰弱していきました。3月初旬の肌寒い日。夜も深まり日付が変わる頃、Aさんは眠るように息を引き取りました。

Aさんが亡くなったという知らせが伝わると、他の入居者の方々や訪問看護師やヘルパーなどAさんに関わっていた関係機関の方々やいつも山友会に集まっているおじさん達、ご本人と関わりのあった他の入居者の訪問看護師やヘルパーの方までもがAさんに手を合わせてくださり、ご遺体をお見送りするときには20人以上もの方々が一緒に見送ってくださいました。

一緒に笑ったり、ときどき喧嘩をしたり、なんとなく握手をしたり、肩をたたき合ったりする日々の何気ない営み。そして、ご本人が何を望んでいるのか知ろうとし、それをできるかぎり叶えようとする……。こうしてご本人とともに積み重ねる日常を、最期の瞬間が訪れるまで続けていくことの大切さをAさんと共にした時間の中で感じさせられました。

これからも、入居者の方々をはじめ入居者の方々に関わってくださるかかりつけの医師や訪問看護師、介護事業所の方々とともに、何気なくも大切な日常を紡いでいきたいと思ひます。

(山友荘 石井)



活動報告 6

ホームレス状態にある方や地域で暮らす元ホームレスの方などが、地域の中で孤立せずに自分の存在を認められる居場所と、自身の生きがいとなるような社会的な役割を手にするを目的に、そうした方々が主体的かつ持続的に参加できる居場所づくりや生きがいづくりをサポートしています。



・2018 年度 居場所・生きがいづくり
プロジェクト 活動実績

生きがいづくりミーティング
実施回数

生きがいづくり活動
実施回数

年間延べ参加人数

12回
146回
360人



活動報告

居場所・生きがいづくりプロジェクトが
始まってから5年が経ちました。2018年
度もひと月に1度のミーティングを重ねて、
それぞれに行っている活動の様子、
やってみたいこと等の意見を共有してき
ました。そして、ミーティングから生まれ
たドヤ清掃や石けん作り、人形作り、
DVD鑑賞会、屋上菜園の活動を続け
てきました。

毎回のミーティングの終わりには来月のミーティングの予定を参加者みんなですべて決めます。しかし、1か月後の予定を覚えている方は少なく、始まる前にスタッフがメンバーの方一人ひとりに声をかけてようやく集まるような状態でした。それが、昨年度は初めて時間前にメンバーの方々がミーティングに集まり、スタッフを待っていてくれたのです。メンバーの皆さんにとっても、だんだんと大切な場となってきてくれていることを感じるとともに、信頼関係や絆が出来ていくにはゆっくりとした流れが必要で、“スイッチオン、はいスタート!”の合図でそうした関係ができるというわけにはいかないものだと知らされました。

2018年度のミーティングを通して、メンバーの方々のほとんどがご自身の健康状態に大きな関心があることがわかりました。関節痛などの持病に加えて、年齢的に高血圧に悩む方がとても多かったのです。「どうしたらいいと思いますか?」と問いかけてみたところ、

「血圧を下げる体操でもやってみようか」とのこと、皆さん真剣なまなざしで簡単な降圧体操に取り組んでいました。これは現在でも続けて行っています。

さらに、その場にいない方の様子やその方の病気の心配などについてもミーティングで盛んに話されるようになりました。健康状態に関心があることは当たり前のことなのかもしれません。しかし、他者との関わりや自分にとっての居場所、生きがい、大切だと思いあう相手のない生活の中で、自分を大切にすることはとても難しいことです。健康状態について仲間と話し合えるということは、決して弱くはない絆が築かれている表れなのではないかと思います。

また、参加し始めてまだ 3 回目のおとなしい性格の方が、ミーティングが終わった後に「とても楽しかった。また来たい」と静かにおっしゃっていたことがとても印象深く、孤独で塞ぎこみがちな方も他者との関係を築き、それぞれの役割や居場所ができていく「場」の意義を改めて感じさせられました。

年度の終わりには、自分たちのよく行くお店についての話題も出ました。自分のことから身近な仲間のことへ。そして自分たちの暮らすこの山谷の町について。一人の住民として考えられる機会にもなればと願っています。

(居場所・生きがいづくりプロジェクト 伊藤)

山谷・アート・プロジェクト

活動報告

7



©Tokio



©Tokio



©Teruo



©Masaharu



©Hideaki



©Hiroyuki



©Jiro



©Hiroyuki



©Misao

2015年10月に山谷・アート・プロジェクトの活動が始まってから5年目を迎えました。昨年度は上野駅で写真展“SANYA ARTS TIME EXHIBITION - 「山谷の文化的時間」”を開催することができ、イギリスのマンチェスターでの「国際アート・ホームレス・サミット&フェスティバル」でもこの取り組みを報告することができました。

そして写真部のおじさん達は日々カメラを持ち、身の回りの出来事を記録しています。何事も持続力が大切。味のあるおじさんたちの写真をお楽しみください！

※山谷・アート・プロジェクトのウェブサイトが出来ました。ぜひご覧ください！
<https://sanyaartproject.wixsite.com/site>
(山谷・アート・プロジェクト 後藤、高木)



SANYA ARTS TIME EXHIBITION - 「山谷の文化的時間」
主催：東日本旅客鉄道株式会社
運営：Breakステーションギャラリー運営事務局
企画協力：一般社団法人 谷中のおかって



「国際アート・ホームレス・サミット&フェスティバル」
主催：With One Voice
協力：プリティッシュ・カウンスル

共同墓地の 運営

活動報告

8

「死後もつながりを感じていられるように」という想いのもと、活動を通してつながりを持ったホームレス状態にある方で、無縁仏となってしまう方のための共同墓地を運営しています。2018年度末で14名の方のご遺骨をお納めしており、お盆やお彼岸の際などには生前親しかった仲間たちが皆でお墓をお参りしています。



お盆のお墓参り



協力者からのメッセージ

わたしたちは、生まれたら必ず死なねばならないことや、出会う人とは必ず別れねばならないことを知りながらも、誰かと、できればずっと一緒にいたいと願います。人間とは、本当に非合理的な感情をもとに生きているのだなあとと思います。

一方で、路上生活や劣悪な労働環境で生活せねばならなくなるまでには、家族や友人であっても「助けて」が言い出せないくらい、人間関係が希薄になっていることがあります。そのような厳しい状況をくぐり抜けて山友会にたどりついたおじさんたちにとって、血縁ではないけれども人生の最期まで一緒に過ごせる仲間の存在は本当に大切なものでありましょう。

山友会のお墓は、そんな大切な仲間を見送り、ときどき会いにゆく場所でありながら、自分自身も最期の時まで仲間と一緒に過ごし、見守ってもらえることを感じられる場所なのでしょう。また、亡くなったからこそ存在感を増す人もいらっします。はるか遠くにいるのではなくて、そばにいて、つながり続けてくれる仲間を感じるからこそ、「アイツが見てたらなんていうかなあ」とがんばれることもあります。山友会のお墓は、精一杯生きたおじさん一人ひとりの存在を大切にしている象徴であるとともに、そんなつながりを生きる力や支えにするためにも欠かせない心の集い場と呼べるのではないのでしょうか。



(光照院 副住職 吉水岳彦)

会計報告

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

[税込] (単位: 円)

自 2018 年 4 月 1 日 至 2019 年 3 月 31 日

《 経 常 収 支 の 部 》		
【経常収支の部】		
【経常収入】		
会費収入	126,000	
事業収入 (山友荘)	31,120,200	
業務委託収入	10,917,000	
寄付金収入	27,657,122	
受取利息収入	467	
雑 収 入	2,071,619	
経常収入 計		71,892,408
【事業費】		
保健・医療援助事業	2,687,608	
宿泊サービス (近隣館) 事業	314,500	
宿泊サービス (山友荘) 事業	31,806,269	
生活相談・支援事業	8,134,015	
給食サービス事業	4,073,464	
居場所・生きがいづくり事業	76,485	
山谷・アート・プロジェクト事業	73,862	
当期事業費 計	47,166,203	
合 計	47,166,203	
事業費 計		47,166,203
【管理費】		
給料手当	4,028,252	
アルバイト給料	1,604,690	
法定福利費	2,210,304	
福利厚生費	128,076	
通 信 費	1,302,095	
荷造運賃	1,938	
旅費交通費	67,588	
通勤交通費	288,924	
広告宣伝費	320,000	

会 議 費	155,448	
事務用消耗品費	438,683	
備品消耗品費	42,258	
新聞図書費	44,400	
印刷経費	347,932	
修 繕 費	196,952	
研 修 費	928,751	
車両燃料費	900	
保 険 料	287,559	
租税公課	224,300	
諸 会 費	17,400	
リース 料	442,908	
支払手数料	717,823	
減価償却費	3,540,273	
固定資産除却損	1	
雑 費	124,891	
管理費 計		17,462,346
経常収支差額		7,263,859
【その他資金収支の部】		
【その他資金収入】		
その他資金収入 計		0
【その他資金支出】		
その他資金支出 計		0
当期収支差額		7,263,859
前期繰越収支差額		74,749,729
次期繰越収支差額		82,013,588
《 正 味 財 産 増 減 の 部 》		
【正味財産増加の部】		
当期収支差額	7,263,859	
正味財産増加の部 計		7,263,859
【正味財産減少の部】		
正味財産減少の部 計		0
当期正味財産増加額		7,263,859
前期繰越正味財産額		74,749,729
当期正味財産合計		82,013,588

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

[税込] (単位:円)
2019年3月31日現在

《資産の部》	
科 目	金 額
【流動資産】	
(現金・預金)	
現 金	53,454
みずほ普通	52,027,705
郵便貯金	10,042,488
現金・預金 計	62,123,647
流動資産合計	62,123,647
【固定資産】	
(有形固定資産)	
土 地	9,536,629
建 物	8,023,291
建物附属設備	1,348,094
構 築 物	1,116,000
車両運搬具	758,331
器具 備品	3
有形固定資産 計	20,782,348
(投資その他の資産)	
保 証 金	12,630
敷 金	100,000
投資その他の資産 計	112,630
固定資産合計	20,894,978
資産の部 合計	83,018,625

《負債・正味財産の部》	
科 目	金 額
【流動負債】	
預 り 金	1,005,037
流動負債 計	1,005,037
負債の部 合計	1,005,037
《正味財産の部》	
【正味財産】	
正味 財産	82,013,588
(うち当期正味財産増加額)	7,263,859
正味財産 計	82,013,588
正味財産の部 合計	82,013,588
負債・正味財産の部 合計	
	83,018,625

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

[税込] (単位:円)
2019年3月31日現在

《資産の部》		
【流動資産】		
(現金・預金)		
現 金	53,454	
みずほ普通	52,027,705	
郵便貯金	10,042,488	
現金・預金 計	62,123,647	
流動資産合計		62,123,647
【固定資産】		
(有形固定資産)		
土 地	9,536,629	
建 物	8,023,291	
建物附属設備	1,348,094	
構 築 物	1,116,000	
車両運搬具	758,331	
器具 備品	3	
有形固定資産 計	20,782,348	
(投資その他の資産)		
保 証 金	12,630	
敷 金	100,000	
投資その他の資産 計	112,630	
固定資産合計		20,894,978
資産の部 合計 (A)		83,018,625

《負債の部》		
【流動負債】		
預 り 金	1,005,037	
所得税	(922,137)	
住民税	(82,900)	
流動負債 計		1,005,037
負債の部 合計 (B)		1,005,037
正味財産 (A)-(B)		82,013,588



■注記表

2019年3月31日現在

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】	
(1) 固定資産の減価償却の方法	
有形固定資産は、旧定額法及び定額法による直接減額方式を採用している。	
有形固定資産の減価償却累計額	31,129,925 円
(2) 次期繰越収支差額の内容は次の通りである。	
現金	53,454 円
預金及び預け金	62,070,193 円
有形固定資産	20,782,348 円
敷金及び保証金	112,630 円
預り金	▲ 1,005,037 円
差引計	82,013,588 円

イベント・講演等／メディア掲載

ホームレス問題や山谷地域で起きている社会的孤立を背景にした問題を根本的に解決していくためには、多くの方々のご協力が欠かせません。ホームレス問題や山谷地域の現状、そして山友会の取り組みを普及し、問題解決に向けた参加を促進するために様々なイベントや講演活動、マスメディア等の取材への対応を行っています。

時期	イベント・講演	メディア掲載
2018 年 4 月	・チャリティー専門ファッションブランド「Jammin」と期間限定チャリティキャンペーン実施	・日本テレビ・真相報道バンキシャ！『山谷ドヤ街の今』（4 月 22 日放送）
2018 年 5 月	・東海大学 健康科学部 看護学科にて講演「社会の変化に伴う地域の健康問題と支援の実際」（副代表 油井） ・荒川社会福祉士会 平成 30 年度総会記念講演「山谷地域におけるホームレス・生活困窮者への生活支援の実践からソーシャルワークの位置づけを考える」（副代表 油井）	・Yahoo! ニュース・オルタナ S「共に食べ、共に生きる 路上生活者に寄り添う NPO」（5 月 1 日付） ・朝日新聞『（耕論）子ども食堂ブーム考 二本松一将さん、はるな愛さん、後藤広史さん』（5 月 24 日付）理事 後藤（日本大学文理学部社会福祉学科准教授）のコメントが掲載。
2018 年 7 月	・帝京大学公衆衛生学研究科にて講義「医療とボランティア」（副代表 油井） ・城北労働福祉センター 所内研修にて講義「山谷地域で活動するNPO法人の活動内容等の理解」について（副代表 油井） ・岩手県行政初任者少人数演習にて講義「民間支援の実際」（副代表 油井） ・人権ネットワーク東京&反差別・人権（青年）交流会「労働、貧困、階級問題／運動に関する討論」第 4 回討論会に登壇（副代表 油井）	・季刊 社会運動 No.431 2018・7「自立をサポートする住まい ドヤをリノベーションした山谷のケア付き宿泊施設」
2018 年 8 月	・IFMSA-Japan（国際医学生連盟 日本）スタディツアー ・風行社セミナーにて講義「山友会のあゆみと活動」（副代表 油井） ・東京民主医療機関連合会職員研修スタディツアー（副代表 油井）	・読売新聞 医療ルネサンスー平成時代 闘うー「医師の生き方に影響」（8 月 31 日付）
2018 年 9 月	・台東区協働事業提案制度 平成 29 年度採択事業 中間報告会にて「社会的きずなが希薄な独居生活者への居場所・生きがいづくり事業」について報告（副代表 油井）	

時期	イベント・講演	メディア掲載
2018 年 10 月	・新潟県老人クラブ連合会 第54回新潟県老人福祉大会にて講演「互いに支え合うことのできる地域を目指すために」（副代表 油井） ・法政大学 連帯社会インスティテュート第 43 回まちづくり都市政策セミナー 分科会「縮退する都市の住宅問題と市民セクターの役割」にて報告（副代表 油井）	
2018 年 11 月	・きむらとしろうじんじん 野点 バラエティロード 山谷 2018 に協力・出店 ・SANYA ARTS TIME EXHIBITION - 「山谷の文化的時間」展 - に出展 ・「アート&ホームレス国際サミット」に参加（山谷・アート・プロジェクト 後藤） ・東京アメリカンクラブ women's club チャリティードライブ	
2018 年 12 月		・地域とくらしの課題解決月刊マガジン『のんびる』12 月号特集「知ることで変わる 困窮者支援」にて山谷スタディツアーについて掲載
2019 年 1 月		・Yahoo! ニュース特集連載「「わたし」と平成」「僕の役割は教会の中で祈ることじゃない」NPO 法人「山友会」代表 ルボ・ジャンさん（73）東京・山谷（1 月 10 日配信）
2019 年 2 月	・2018 年 活動報告会 開催 ・荒川社会福祉士会スタディツアー ・台東区福祉事務所所内研修にて講義「山谷地域の現状と社会的きずなが希薄な独居生活者への居場所・生きがいづくり事業について」（副代表 油井）	
2019 年 3 月	・U.S.-Japan Service Hub Network に参加。シンポジウム「Refuge Neighborhoods: Service Hubs and Homelessness in the US and Japan」に登壇「Religious Social Safety Nets」（副代表 油井）、「Neighborhood Social Service Delivery」（理事 後藤）	・Japan Times「No one wants to be homeless': A glimpse at life on the streets of Tokyo」（3 月 2 日配信）

ご支援について

ご支援いただいている方からのメッセージ

大学時代、先生の紹介で山友会の活動に参加し始めて以来、社会人となった今でも仕事が休みの日にボランティアに参加しています。山友会に来ては、おじさん達と世間話をしたり、一緒にごはんを食べたりと、自分の親以上に歳の離れたおじさんも多いのですが、友達に会いに来るような感覚で過ごさせてもらっています。初めて山友会に来てから10年近く経ちますが、ボランティアとして長く関わっている理由は、このアットホームな雰囲気によるものなのかもしれません。昨年はマンスリーサポーターとしても活動を応援しています。これからも山友会と長い付き合いができればと思っています。



(植田裕太 様)

きっかけは、近所の呑み屋の顔見知りがお世話になったことでした。不運な状況が重なり公園生活に。呑み仲間のみんなも出来る限りの支援をしましたが、再就職が決まらず公園生活にも疲れ切っていた彼に山友会を紹介しました。役所に相談するのは後ろめたいという気持ちに寄り添って相談にのってもらったことで、彼はとても安堵した様子でした。福祉制度を利用できるようになった彼の生活は落ち着きを取り戻しました。彼のような不運は他人事ではなく、身近なことだと思っています。山友会の取り組みに共感し、感謝の想いからマンスリーサポーターになりました。近隣住民の一人としても、今後とも宜しくお願いします。



(本屋敷あい 様)

フードバンク団体に勤めていた腐れ縁の友人に連れられてから十数年。本業の仕事の経験を買われてデータベースの導入や運用などのバックオフィス関連の手伝いをするように。本業もあり昼間の活動には参加できないのですが、広報支援チームのボランティアとしてスタディツアーの案内役などを行っています。山友会のおじさん達とはたまにしかお会いできませんが、自分にとっても山友会が大切な居場所になっています。定年退職後に孤立する男性が多いという報道がある現代社会において、血縁や地縁、社縁でもないつながりと居場所をつくり出している山友会の存在は貴重だと思います。



(服部芳弘 様)

・一般財団法人日本メイスン財団様より山友会クリニック薬品購入費用、シェルター宿泊費用のご支援
・在日米商工会議所様より活動費用のご支援
をはじめ多くの団体と個人の方々よりご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

ご支援のお願い

【マンスリーサポーターに参加する】(毎月の寄付)

クレジットカード決済・口座振替のいずれかをお選びいただけます。

お申込み方法などの詳細は山友会ホームページ

(<http://sanyukai.or.jp/monthlysupporter.html>) をご覧いただくか、山友会事務局までお問合せください。

ホームレス状態にある人たちが、ひとりではないと感じ、笑顔を取り戻すために。皆さまのやさしさを私たちに託してもらえませんか。



【寄付をする】

ーご寄付の方法

・郵便振替をご利用の場合

00100-2-158990 加入者名：山友会

・銀行振込をご利用の場合

みずほ銀行 三ノ輪支店 普通：1652317

名義：特定非営利活動法人 山友会

※メール・FAX・お電話にて、お振込者名、ご住所、お電話番号をご連絡ください。

・クレジットカードをご利用の場合

<http://sanyukai.or.jp/donation.html>

上記 URL より、クレジット決済システムを利用してご寄付ください。

※寄付金受領証明書は、1月1日～12月31日までの1年間の合計寄付金額を記載し、翌年1月～2月ごろにお届けいたします。

※寄付金受領証明書の郵送は年間寄付額1,000円以上とさせていただきます。

恐れ入りますが、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

【食料など支援物資のご寄贈】

ー食 品・・・米(精米済)、缶詰、インスタント食品、調味料、味噌、ふりかけ、海苔など ※賞味・消費期限内のもの



ー雑 貨・・・タオル、石鹸、カミソリなどの日用品、靴下、洗剤(洗濯用、食器用)、アルミホイル、ラップ、ティッシュペーパー、トイレットペーパー、ごみ袋(半透明か透明のもの・45L) など

ーその他・・・未使用切手、書き損じはがきなど



山友会

NPO

特定非営利活動法人

SANYUKAI

特定非営利活動法人

山友会

〒111-0022

東京都台東区清川 2-32-8

TEL: 03-3874-1269

FAX: 03-3874-1332

MAIL: info@sanyukai.or.jp

ホームページ: <http://sanyukai.or.jp>

